

# なごみま専科

2019年 No.91

趣味の呉服ゆうき

〒668-0873

豊岡市庄境 211-1

TEL0796-22-5646

FAX0796-23-6239

フリ-0120-930-670

## 風待月

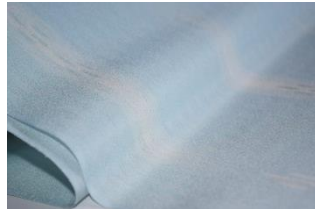
(かぜまちづき)

早くも六月に入り、今年の夏もまた暑くなるのでしょうか？六月の異名といえば水無月（みなづき）ですが、この他にもたくさん（異称があるそうです。涼暮月（すずくれづき）、蟬羽月（せみのはづき）、鳴神月（なるかみづき）、松風月（まつかぜづき）、夏越月（なごしのつき）、葵月（あおいづき）、常夏月（とこなつづき）。どれも美しい呼び名です。そして、風待月というのも六月の異称です。旧暦の六月は夏の盛り、蒸し暑い日が続くと、風が恋しく、ほんのささやかな風にも喜びを感じます。

「夏は暑いから着物は着ない。」と断言される方もいらっしゃると思います。しかし、夏は何を着ていても暑いもの。何故着物が日本の民族衣装



本麻の小千谷縮



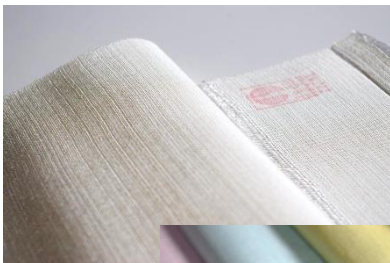
絹織の明石縮

とされてきたのか。それは、四季の移り変わりで気温も変化し、夏は高温多湿となる気候にも適していたからです。着物はその形状から多くの風を取り込むことができ、風通しもよく、洋服よりも涼しいのです。しかし、汗をかくからといって化繊の着物を着るのは逆効果。化繊は熱がこもり肌がべたつきます。天然素材の麻や綿が夏着物に使用されるのは吸湿性に優れているから。また、上質の絹は保湿調整にも優れ夏着物にも最適なのです。「夏は来ぬ」ならぬ「夏は絹」ですね。

## 無地紬「零」誕生！

ゆうき五十五周年を記念して創作したオリジナル着物がようやく出来上がりました。呉服の日に展示させていただきました別染め無地紬「零（れい）」。零は、漢字のとおり「0（ゼロ）」を意味します。加えても引いても元の数字を変えない0。着る人が自由に帯や帯揚げ、帯揚げの足し算を楽しめるように、その足し算を邪魔しないように。それでいて、着物としてちゃんと存在している。そんなイメージ

ゆうきオリジナル  
無地お洒落  
紬「零」



お好きな色に別染めします

## 夏の催し

- 気軽に参加できる「着付け」「茶道」「華道」など「おとなの部活動」始めます。
- 7/16～7/20 ゆうき夏・夜・会  
(営業時間 14:00～21:00・夏物パーガンなど)
- 7/24 出石 ココテラス「川辺の夕涼み」
- 8/3 出石 ふらり・憩い酒場ひとときコラボイベント

ジで白生地から拘りようやく完成しました。先染めの紬では出にくい独特の光沢感、普段着と称される紬にはない、お洒落感を演出しています。ワンピースのように張り切りすぎないけどちよつとお洒落。ありそうでなかったゆうきオリジナルの着物です。着る人に合ったお色を選び別染めします。単衣向き用の生地ですが、もちろん衿仕立てもできます。合わせる帯によって色んな場面でお使いいただける着物です。